

全国初「子どもたちの新しい居場所」事業

— すべての子どもたちが安心して過ごせるスペースをめざす —

令和5年9月8日

更新令和5年10月12日

○五常小学校内に子どもたちの居場所を確保します。

- ・令和5年6月28日から北校舎旧PC室を専用スペースとして当面、月・火曜日に開室しています。
- ・平日は、10時～15時。土日は、学校内外の企画・アクティビティが用意されています。

○対象の子どもは幅広く設定します。

- ・本部を五常小に置き、五常小をはじめとして四中校区全体の子どもが集います。その子どもたちを大人が温かく見守ります。
- ・まずは五常小の児童から始めて、徐々に四中校区の児童生徒等に広がります。
(四中卒～18歳未満の高校中退者なども対象になります)
- ・対象となる子どもの保護者から申込みがあれば、四中校区以外の子どもたちも入室可能とします。
- ・対象となるのは不登校の子どもや、その可能性がある子どもです。(保護者の申込みのもと登録制)
また、一時的なものも含め、不登校に分類されないが学校に来にくい、学級に入りにくい子ども、様々な理由で居場所が必要な子どもも対象です。

○広く民間の知恵と主体的な運営能力を取り込み、持続可能な事業にします。

- ・「事業者=Flags」を運営主体とします。Flagsは、「おしごとマルシェ」の運営も行っていきます。 [Home | kodomohamirai \(kodomohamirainpo.wixsite.com\)](https://kodomohamirai.com)
- ・Flags代表者のプロフィール【櫛辺 悠介 愛称;クッシー】
元高校教員、保護司、「子どもは未来」代表。小学校教員免許を有し、現在山之上小学校で大阪府教育庁の不登校支援員として勤務。教員退職後、団体「子どもは未来」を立ち上げ、「冒険共育」など子どもの支援を実施している。

○運営の目的と方針 子どもたちとともに「自立」をめざします。

- ・Flagsが運営するのは一時的な居場所ですが、必ずしも「学級への帰還」や「この場所からの卒業」をめざすのではなく、「将来の子どもの自立」を目的としています。
- ・子どもたちの「こうしたい」という思いを尊重し、子どもたちとともに運営します。できるだけ自由にスペースを使えるようにして、内装やしつらえ等についても、子どもたちと一緒に考え、創っていくこととします。
- ・市の補助等を受けずに自立運営します。企業等からの寄付や、校内カフェ等の収益を得て、子どもの各種支援活動の運営にあてます。
- ・(外側からは見えにくい) 困難を抱えている子ども・保護者だけではなく、高齢者等を含めた地域住民が気軽に集い交流できるようなスペースにします。枚方市の承認を得て「子ども食堂」を運営するなど、世代を超えたコミュニティスペースとしても運営します。

○安全性の確保

- ・参加は登録制にします。平日の学校課業日や休日の施設開放時と同等のセキュリティを確保します。

○透明性と公正性の担保

- ・地域住民の事業として目的外使用許可など優遇措置を受けるとともに、会計の適正管理を行います。

○魅力あるコンテンツの創出

- ・子どもやスタッフが「自分の居場所」と感じ、継続して来たいくなるような魅力あるコンテンツを創出します。
- ・子どものやりたいことをもとに、基礎的学習や探求型学習につながるようなカリキュラムを編成します。
- ・休日の内外イベント・アクティビティ企画(おしごとマルシェ、冒険共育等)を実施します。このためにいっそう外部との連携を強めて行きます。

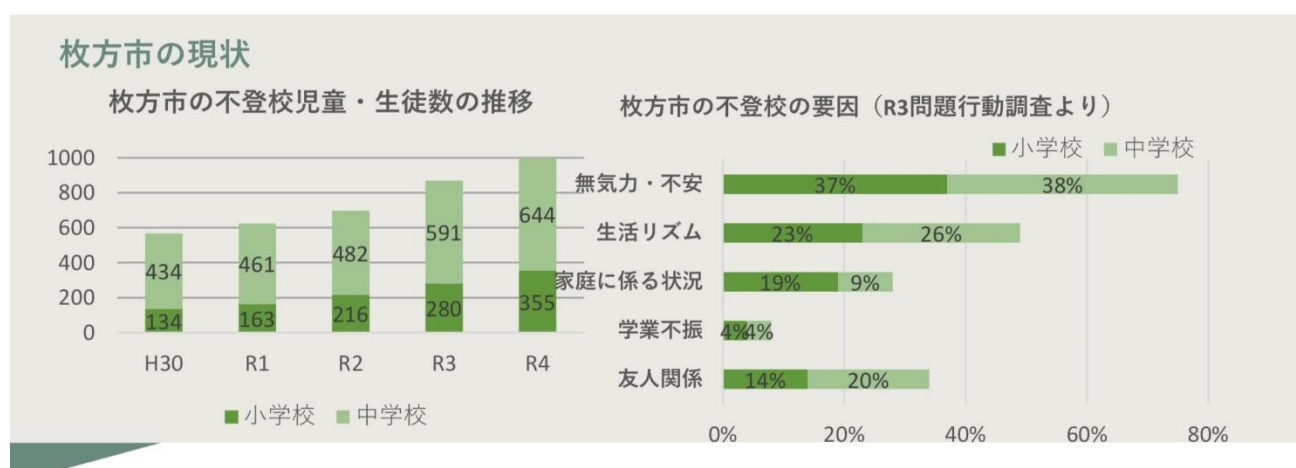
— 本事業実施の背景 —

① 令和5年度 第1回校園長会 所感要旨(谷元教育委員)

コロナ禍の3年間、枚方市の不登校は、小学校283件、中学校560件で過去最高である。

学校は、集団生活にうまく馴染めない子や弱い立場の子にどう寄り添うべきか、学校と家庭が連携し、子ども一人ひとりの個性を知り、個性を受け入れ、個性をどのように伸ばせば良いのかを、人権尊重の精神で考えることが重要だ。

校長が、リーダーシップを発揮し、不登校に悩み、苦しんでいる子どもたちが一人でも救われるよう尽力されたい。



② 不登校対策の「目指す姿」、安心な学校作り掲げる(永岡文科相) 教育新聞 https://www.kyobun.co.jp/news/20230214_06/ 2023年2月14日 (抜粋)

小中学校の不登校児童生徒数が過去最多を更新する中、永岡桂子文科相は、全ての不登校児童生徒への学びの場の確保、全ての子供にとって安心な学校作り、などを盛り込んだ「不登校対策の検討にあたっての方向性(目指す姿)」を提示した。

永岡文科相が示した4つの方向性は、第1に「不登校の児童生徒の全てに学びの場を確保し、学びを継続する」とした。不登校の児童生徒全ての学びの場を確保することについては、「大前提として場所だけでなく、子供たちの学びたいという気持ちを尊重していくという気持ちがなければならない」「不登校の出現率を下げるのが目標

ではない中で、何を目指していけばよいのか評価の指標を見直す必要がある」といった指摘が出された。

専門家の意見としては、「教員たちも大変忙しいので学校に多様な主体が関わっていくことが大切だ」などと、学校のマンパワーの確保が必要との見方が相次いだ。

③ 子どもの不登校 29万人超に「学校行きたくない」と言われたら(抜粋)

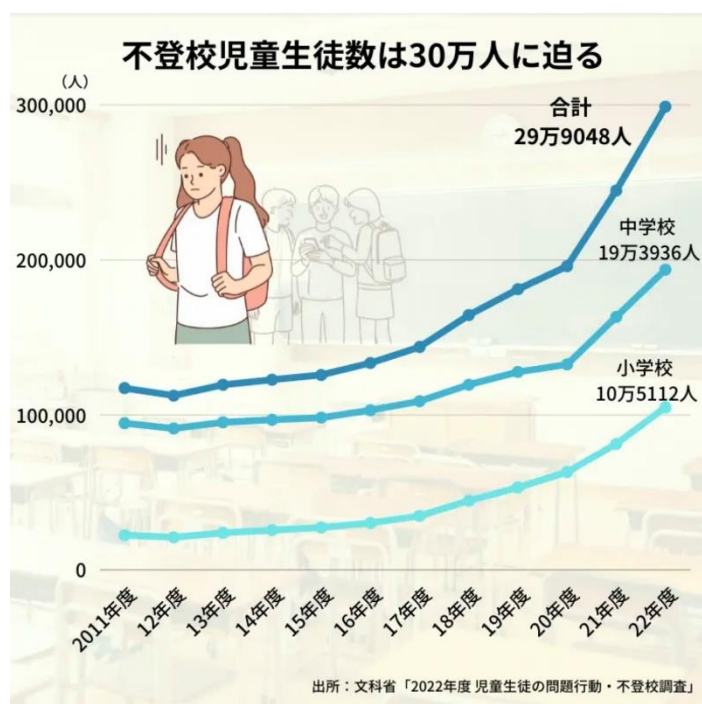
[不登校の小中学生 過去最多の29万人超 いじめ加害者への対応は | NHK | 教育](#)

2023年10月4日 (NHK)

不登校の状態にある小中学生は、昨年度およそ29万9000人となり、10年連続で増加して過去最多となったことがわかりました。いじめの認知件数や暴力行為も過去最多となっていて、調査した文部科学省は「コロナ禍での生活環境の変化や制限による交友関係の築きにくさなどが背景にある」とみています。このうち

▽小学生が10万5112人で、10年前の2012年度の5倍に、

▽中学生が19万3936人で、10年前の2倍に増えています。



④ 枚方市の教育支援センター(適応指導教室)「ルポ」の状況

枚方市の教育支援センターは、御殿山の「ルポ」一カ所です。令和5年9月時点で、登録者数55名。日々通う子どもは数名程度です。(詳細↓↓↓)

[枚方市適応指導教室「ルポ」の活動 | 枚方市ホームページ \(city.hirakata.osaka.jp\)](http://city.hirakata.osaka.jp)

教育支援センターは広い枚方市に一カ所しかなく、保護者の送迎が必要です。不登校の子どもの数が過去最高を更新する中、教育長より、児童の自宅に近い(五常)小学校内で、不登校児童のためのスペース開設の検討指示がありました。以上が、本事業実施の背景です。